

もとぶバイオマス事業協同組合

トラックスケール計量機の導入による生産体制の強化

伐採木や建築廃材を受け入れる際、近隣の重量計のある施設まで行って計量したり、目分量で料金を決めたりしていたが、トラックスケールの導入でそうしたロスや不正確な算定を改善することができた。



荷を積んだトラックごと計量するトラックスケール

課題

■ 目分量による計量や作業にかかる人的、時間的ロスがあった

事業のきっかけ

当組合は、産廃処理してきたが木材等の処理費用の増加、焼却による環境への負担を軽減し、有効にリサイクルすることが地球環境にとって重要な課題を解決すること目的に設立。近隣の伐採木や建築廃材を受け入れた副産物として「木質バイオマス」をチップ化し販売するほか、受け入れの際には重さによって料金を受け取っているが、従来は重量計がなかったために、当社のスタッフが顧客といっしょに重量計のある施設まで行って計らなくてはならず、その手間や時間のロスが負担となっていた。また、時間ロスによる供給量の確保や正確な計量による顧客への信頼度向上も必要となっていた。

成果

■ 顧客へのサービスと信頼性が向上した

事業の取り組み～成果

このロスを解消するために、補助金を活用して「トラックスケール」を導入することにした。これは荷をトラックに載せたまま重量が計れるもので、入場の際と出場の際の2回計量し、その差で積載量を正確に計れるシステムである。トラックスケールにトラックが載ると事務所内にある機器に重量が表示される。稼働を始めてからは重量計のある施設まで行かなくて済むようになって顧客から非常に喜ばれている。また、目分量で料金を算出する場合もあり、木の種類によって重さが違うことなどから正確な計量は困難であったが、それができるようになり顧客へのサービスや信頼性の向上につながった。

展望

■ 生産性や利益率のアップ、さらに新事業の展開も

今後の展望

受け入れの際には男性スタッフが張りついて料金の交渉なども行っていたが、正確な計量ができるようになってこれが必要なくなった。そのため作業効率アップにつながっていて、生産性の向上や省力化にも貢献している。売上げや利益率アップにもつながりそうだ。また、公共工事における産業廃棄物に関しては正確な数量を計って報告する義務があるが、トラックスケールの導入によって、それが可能になるメリットも大きい。さらに現在は焼却処分している建築廃材についても循環活用できるようになればいいと考えていて、その方法を模索しているが、その実現への第一歩にもしたい。



自走式破砕機で細かくする



計量した数値は事務所内の機器に表示

Q 御社のモットーを教えてください

A 地域のために、地域の土木・建設業のために。地域の清掃作業などで出た伐採木の無償受け入れも行っている。

つむぐ × つなぐ

今後の取り組みについてお聞かせ下さい。



代表理事
比嘉 みどり さん

これからのビジョン

当組合は地元の建設業者の経営に資するため、土木・建築関連5社が集まって設立された。伐採木や建築廃材を効率的に処理することは、この設立趣旨に基づいたものである。その流れの中で、今回導入した積載重量計も非常に貢献すると期待している。従来は重さを計るために隣の名護市まで行くことがあり、それによる時間のロスや人件費、さらにトラックの燃

料費などが大きな負担になっていたが、これがなくなれば業者の経営にも大きなメリットになるからだ。地元業者の経営がよくなれば雇用が増えることも期待され、若者が地元で働くことができるようになる。こうした長期的なビジョンにおいて積載重量計が第一歩となれるように運用していきたい。

その他の製造業(木質バイオチップ製造)

もとぶバイオマス事業協同組合

〒905-0222
沖縄県国頭郡本部町字並里 1136
tel.0980-47-2715 fax.0980-48-4881



・代表者名	代表理事 比嘉 みどり	・設 立	平成24年9月
・資 本 金	600万円	・従業員数	8人